



差がつく！学生との接点づくり ～インターンシップ編～

大学生等のインターンシップやオープンカンパニー等への参加率が年々上昇している中、その機会を有効に活用することは大切です。今回はインターンシップ等の場でどのように学生に自社の魅力を伝え、接点を持続けられるかを特集します。

POINT 01

学生を惹きつけるインターンシップ等のプログラムをつくる

全国的な新卒採用活動の早期化の流れを背景に、県内企業においても早期の学生との接点となるインターンシップ等の重要度がいっそう高まっています。学生を取り巻く環境や採用市場が大きく変化している中、県内企業がインターンシップ等を実施するにあたり、どのような工夫をしているかをご紹介します。

POINT 01：インターンシップ等への参加学生を集めるには？

学生にとっての入口を増やす工夫

今までと同じやり方では学生を集められなくなった。これまでは就活ナビサイトをメインで使用していたけれど、ナビサイトに頼りすぎず、大学のガイダンスに参加するなど、入口を増やす工夫をしている。



半日、5日間のプログラムを用意

5日間のインターンシップの前に、業界研究として参加できるオープン・カンパニーも実施。オープン・カンパニーに参加し興味を持った学生が、インターンシップに参加できるようにしている。

COMMENT

インターンシップ等に参加する時期の学生は、業界を絞り込んでいるケースもあれば、まだまだ迷い中というケースもあります。情報収集の方法も、就活ナビサイトだけではなく、多くの学生にアプローチするのであれば、学生の接点を持つチャンスをもくつくることも大切です。

POINT 02：プログラム内容について工夫していることは？

コース別に様々な部門で受入

インターンシップに参加した学生が、実際に働くイメージを持つことができるよう、職場体験型のプログラムを実施。部門別に体験できる3コースを企画している。

フィードバックの質を意識

インターンシップを通じて「ここで働いたらこんなことができる」というイメージを持ってもらえるよう、強みを仕事でどう活かせるか、どんな仕事ができそうかを丁寧にフィードバックしている。

こんな工夫も！

気軽に参加してもらえるよう私服OKにしている。

こんな工夫も！

インターンシップ後も会社のイベントをLINEで情報提供し、つながりを持続させて、採用につなげられるようにしている。

とにかく会社の魅力を伝える

これまで自社で実施していた先輩同行仕事体験プログラムは「仕事を好きになる」機会、他社に行ってしまうこともあった。そのため会社を好きになってもらえるよう、グループワークを中心としたプログラムに変え、会社の魅力を伝えられるようにした。

学生のタイバ意識をふまえて

1日2～3時間集中型×5日間のプログラムで組み立て。タイバ意識を持ちつつ、興味のあることに時間をかけたい意識もあるので、グループワークでは学生から「課題を終わらせたいのであと1時間続けたい」という希望も出るくらいに。

COMMENT

プログラムを工夫している企業からは、「とにかく学生目線で考える」「変化の激しい学生の採用市場に対応できるよう情報収集をおこたらない」などの声があげられています。

ジョブカフェいわてでは、今年度実施した以下セミナーのアーカイブ配信を実施中。詳細はジョブカフェいわてにお問い合わせください。

配信中 2025年5月14日(水)開催：いま考えたい27卒採用作戦会議 他社事例に学ぶ「自社ならではの」採用アプローチ

CASE
02インターンシップ等に参加した学生の声
- 企業への ポジティブ/ネガティブ 感 -

実際にインターンシップ等に参加した学生の声をご紹介します。インターンシッププログラム等の企画・改善のヒントにしてみましょう。

良かったと思うインターンシップ等

- ☞ 企業説明だけでなく、時間をかけてワークに挑戦させてくれるプログラムで達成感があった。
- ☞ 業務を体験させてもらい、自分のできること、できないことが理解でき、学業にもつながった。
- ☞ 社内に席をつくってもらい、課題に取り組んだことで、職場の雰囲気や仕事の様子をしっかり理解することができた。
- ☞ 若手社員との座談会で、入社後の印象、楽しかったこと、辛かったことなど、入社前後の話を聞くことができ、参考になった。

残念だったと思うインターンシップ等

- ☞ 開催1時間前に突然送迎バスの連絡が来るなど、連絡ミスがあった企業。信頼感が下がった。
- ☞ 業務を体験させてもらえたが、ただただ無償のアルバイトをしているような感覚だった。
- ☞ 具体的に仕事のイメージをするため、社内のいろいろな立場の方と話したいと思っていたけれど、内定者との座談会だった。内定者だったので入社後の話を聞くことができず、仕事のイメージができなかった。

COMMENT

学生にとって印象に残るインターンシップ等とは、**実践的な学びと本音で語り合える対話**の場があることがカギになりそうです。また、内容の充実度はもちろん、**基本的な運営の丁寧さ**も企業の信頼度に直結しそうですね。

Tips

学生が就職先を確定するとき、どんなことが決め手になっている？

会社の
雰囲気

- 採用担当者や、面接での役員の方の印象が良かった。
- 会社説明会を聞いて、一番信頼出来そうなところだと思った。
- 雰囲気と先輩社員の方々の人柄に惹かれた。
- 一人の人として対話してくれた。こういう職場なら、自分の身をおいても良いと思えた。

POINT

インターンシップ等で出会う社員が学生の就職先の決め手に！

学生は、インターンシップや採用選考の中で出会う人から、その会社の雰囲気を想像しています。例えば上司と部下がどのように会話をしているかなどもしっかり見られています。特にインターンシップは、学生と社員がじっくり関わるチャンスです。戦略的にその機会を活用しましょう。

やりがいを見出した

- 技術を極めることができる会社だと思った。
- 自分の熱意が一番発揮できる会社だと思った。
- 少数精鋭の企業で自分の力を伸ばしていけそうだったから。
- 何度も面接を重ねたことで、自分が働くイメージが具体的になり、ここで頑張りたいという強い気持ちが生まれた。
- インターンシップ後の企業からのフィードバックで、自分の強みや会社で生かせそうなことを引き出してもらえた。



POINT

インターンシップ後のフィードバックで学生の気持ちを惹きつける！

学生の仕事選びの基準は人それぞれ。インターンシップのフィードバックでは、取り組み姿勢や成果を評価するだけでなく、右のポイントを意識すると、学生の「ここで働きたい」という気持ちにつながられるかもしれません。

学生の成長につながるかを意識

学生の強みや評価されたこと

課題と改善策の検討

その強みなどを自社であれば具体的にどう活かせるか



ジョブカフェいわて

〒020-0024 盛岡市菜園1-12-18 盛岡菜園センタービル5階

ジョブカフェいわては、岩手県が運営している若者のしごと・就職のサポート施設です。

2025年7月発行